

「子どもの社会参画のよりどころとなる指針」の改訂案について  
 (R6.2.16 懇談会での意見を踏まえた改訂案)

R6.2.16 懇談会_改訂案 (水色) へのご意見		R7.12.9 時点_改訂案 (黄色)	
P4	① アドボカシーという言葉で入れるかどうかは別として、意見表明の機会の確保、その前に意見の形成を支援する、という段階の記載があると親切。イベント的な機会だけでなく、日常的に思ったときに言ってみようと思える対話的、継続的な関係性をつくっていくことについて記載があるとよい。	P4	<6 つ目の○の記載を追加> ○子どもたちが誰かに伝えたいことを意識化し、言葉にしたりできるよう支援したり、「自分の意見を持っていい」と思える雰囲気づくりや、「自分の意見を話していい」と思える関係性づくりも重要です。
P8, 9 [フィードバック]	② フィードバックの意義の記載があるとなぜフィードバックするのかということが分かりやすくなる。	P9	<1 つ目の○に記載を追加> ○子どもに意見を聞いたら、子どもの意見を採用する(できる)、しない(できない)を含めて丁寧に検討し、子どもの意見をどのように扱ったのかを丁寧にフィードバックし、子ども自身に意見が尊重されているということを理解してもらうことが大切です。 自分の意見が採用された場合も、採用されなかった場合も、自分の意見がどのように検討され、社会に影響を与えたかを知ることで、社会参画の意識が高まり、次の意見表明へとつながります。
	③ フィードバックに時間がかかる場合にどのようにフィードバックするのかを伝える記載があるとよい。		<2 つ目の○に記載を追加> ○フィードバックまでに時間がかかると、子どもは、自分の意見が受けとめられているのか不安になったり、大人への不信感を持ったりする可能性があります。子どもの意見が形になるまで時間がかかる場合は、複数回に分けてフィードバックしたり、いつどんな方法でお知らせするのか、子どもが見通しを立てられるようにするなど、子どもの時間軸を意識したフィードバックを心がけます。
	④ 子どもは社会の一員なので「社会参画に関わることがなかった子ども」は想定されない。書きぶりの工夫が必要。		<4 つ目の○の記載を修正> ○本市の様々な部署において、こうした事例を積み重ねることで、これまで社会参画に関わることがなかった子どもに対しても、次の機会に参加してみよう多くの子どもたちが自分の意見を言ってみようという気持ちを掘り起こすことにつながるものと考えられます。

R6. 2. 16 懇談会_改訂案 (水色) へのご意見		R7. 12. 9 時点_改訂案 (黄色)	
P10～ [子どもの意見を聞く方法]	⑤ 指針の職員への浸透について、職員に理解してもらうには、子どもがいる場所に足を運んでもらう、支援している団体の活動を知ってもらうのが一番はよい。子どもの社会参画や意見表明として、支援者や現場に聞いてみる、ということ盛り込むことも必要。	P10	<3つ目の○の記載を追加> ○子どもと関わり支援している団体など子どもがいる場所に足を運び、現場を見て、活動を知り、支援者の声を聞くことも有効です。
	⑥ 子どもの意見を聞く方法としてワークショップはハードルが高い。	P11～ P14	<「子どもの意見を聞く方法（主なもの）」の掲載を、ワークショップ→ヒアリング→アンケート からアンケート→ヒアリング→ワークショップ の順に変更> <6つ目の○を削除→P11に修正して記載> ○令和6年度から、各部署が作成する子ども向けの Web アンケートフォームを集約させたページ「なごっちアンケート（仮称）」を市公式ウェブサイト上に設置していますので、子どもの意見を聞く方法の一つとしてご活用ください。
P29～ [子どもの社会参画の事例]	⑦ 工夫したこと、反省点など補足的なことがあると分かりやすい。	P16	<(2) 2つ目の○の記載を修正> <del>○そのほかにも、ヒアリングの手法、アンケートの手法、など、本市における事例を「子どもの社会参画の事例」として29ページ以降に掲載しています。</del> ○そのほかにも、アンケートの手法、ヒアリングの手法など、本市における事例を「子どもの社会参画の事例」としてとりまとめ、定期的に各局に共有していきます。
	⑧ 他局がどんな取り組みをしているかということは参考にしやすい。		